



ラングストン通信⑨

ラングストン大学アメリカヤギ研究所
塚原洋子

例年がない降雨量と穏やかな夏が過ぎ、心地よい季節になりました。夏の間の狂气的な忙しさもひと段落、屋外での BBQ や趣味に費やす時間が取れるようになりました。

ラングストンの訪問者

当研究所では、様々な訪問者を常に受け付けています。私のように長期間滞在して研究を行う客員研究員、短期の研究員、研修員、視察団、留学生、生産者など、国籍、年齢、訪問の理由など様々です。客員研究員の場合は、アメリカ農務省の助成研究プロジェクトを担当するのですが、それ以外の場合は、訪問者の要望に合わせて、個別の研修プログラムや短期間で行える実験を組むなどして対応しています。また、普及分野では、ヤギの人工授精、廃畜（屠体）を利用した堆肥作り、寄生虫対策、ヤギ皮のなめし方などのワークショップも随時行っています。この10月には、**St.Croix Hair Sheep International Association**（セントクロイヒツジ国際協会）の年次大会がオクラホマで開催され、ラングストンでの1日研修が実施されました。アメリカ全土からセントクロイヒツジの生産者が集まる中、私も付属牧場のアリーナで担当している寄生虫耐性による育種選抜プロジェクトのプレゼンテーションを行いました。

さらに、今春には山口大学の谷口先生、名古屋大学東郷フィールドの吉村技術員と日本からのお客様もお迎えしました。吉村氏は、ヤギの栄養要求量の推定、FAMACHA スコアの使い方、1500頭のヤギをどのように管理しているのかという3点を主に学びたいという目的で、今年4月24日から27日までラングストンを訪問されました。東郷フィールドでは、黒毛和種生産も行っているということで、当研究所でのヤギ研修以外にもオクラホマ州立大学の肉牛生産施設、凍結精液生産販売企業の見学、野生バイソン保護区を訪問され、忙しく過ごされました。その吉村氏から研修後の感想をいただいたのでご紹介します。

【ラングストンで学んだこと】

1) 効率的管理体制

当方の個体管理重視なのに対し、A I G R（ラングストン大学アメリカヤギ研究所）は効率よく、省力的に全体管理をできるような体制でした。ペンごとに大きなヤギが一頭だけいるイメージをしました。日本における牛舎も大規模化すると鶏舎のようになっていたので、ヤギでも同様のことが可能と考えておりましたが、その実例を見れて満足です。今の当方の管理方法は零細農家的で安定はしてはいるものの①効率的ではない②管理者が変わると状態が変化しやすい③ヤギの出来にムラが生じやすいと言う弱点を抱えております。そちらの斉一性重視の管理方法の方が実験動物の提供という当方農場のミッション的にも、公務員（もどき）という大学職員のあり方的にも、より適した管理体制であると思っております。ヤギだと個体間競争が激しい印象で、鶏舎化は難しいかと思っておりましたが、やり方次第でどうにかなりそうです。そちらのヤギと異なり周年繁殖なシバヤギで、当方の施設規模、乳用ヤギの不在といった理由からそちらと同じことはできませんが、均一な群編成と個体チェック体制とを整えれば・・・と考えております。

2) 良い管理でよいヤギを

良い餌で健康状態を保つことでヤギを病気や寄生虫から守る、病気にした時点で飼い方失敗だと考えてこれまでヤギを管理してきました。大規模化しても同じ考えで良いと知れたのはとても勇気づけられた次第です。薬を大量使用して管理していたらどうしようかと思っておりました。うちにそんな予算はない。コスト的に人工哺乳できない当方では、産前の母ヤギ管理を徹底することで良い子ヤギを産ませ、母ヤギにきちんと授乳させることで良いヤギを育てることを心がけています。これはこの方針でよさそうなので、さらに徹底したいと思います。

3) 日本は家畜発展途上国である

この塚原さんの言葉がこの旅最大の収穫です。AMAZONで英語のヤギの飼い方（一般向けの様子）の本を買って読むと和書のヤギの本とは比べ物にならない知識レベルで「一般人にはわからないのでは？」と思っておりましたが、Goat Field Day で見た一般人のレベルは日本よりずっと高い印象でした。各大学のエクステンションの効果でしょうか。見習いたいものです。場当たりの日本の家保等の指導に比べ管理戦略そのものについての指導が徹底されていたのも印象的でした。薬だ検査だ言わないのですね。それと、教職員の意思統一具合が感動的でした。「良い管理で良いヤギを」。

名古屋大学フィールド科学教育研究センター東郷フィールド
吉村文孝



近年の訪問者リストを次ページに掲載しました。ラングストンでの留学や研修に興味があれば、お気軽にご連絡ください。

ラングストンニュース

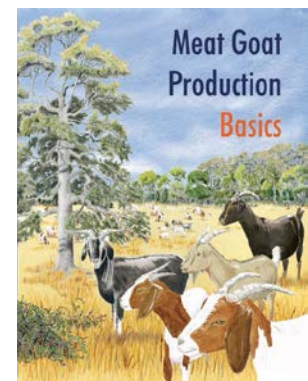
ラングトンから2冊の書籍が出版されました。

① Meat Goat Production Basics (肉用ヤギ生産の基礎) : 低識字版で図が中心、英語が苦手でもわかりやすい内容です。国際輸送費を含め1冊 35 ドル

② Meat Goat Production Handbook (肉用ヤギ生産ハンドブック) 第2版 : 飼養管理から疾病対策、ヤギ肉の販売まで幅広い分野を網羅した読み応えのある一冊です。国際輸送費を含め一冊 65 ドル (スパイラルリングとじ)、75 ドル (無線綴じ)

購入方法: 下記のウェブサイトから注文書をダウンロードして宛先 [MGP Handbook Langston University Box 730 Langston, OK 73050 USA] までお送りください。

<http://www2.luresext.edu/goats/extension/handbookorderform.pdf>



【近年の訪問者一覧】

氏名(敬称略)	国籍	所属	期間	形態	研修内容/プロジェクト
Rongzhen Zhong	中国	中国科学院	2010.10-2012.4	客員研究員	ヤギの寄生虫抗体
Amanda Manley	アメリカ	オクラホマ州立大学	2010.8-2012.5	修士学生	ヤギの余剰飼料摂取量
Ahmed Mohammed	イラク		2011.8-12	博士課程留学生	飼料中のルーメン分解性および非分解性タンパク質量の定量
塚原洋子	日本	ラングストン大学	2011.9-2016.9	客員研究員	ヤギの電気柵評価モデルの確立、ヤギの寄生虫耐性による育種選抜
Michelle Montes Rivera	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2012.6-8	夏季実習生 (学部生)	一般飼養管理、BCS、FAMAC HA、人工授精実習
Rebekah Domenech	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2012.6-8	夏季実習生 (学部生)	一般飼養管理、BCS、FAMAC HA、人工授精実習
Zewei Sun	中国	吉林农业大学 ワシントン州立大学 獣医学科	2012.6-8	サバティカル	飼料中の縮合型タンニンが寄生虫抗体に及ぼす影響
Erin Parkinson	アメリカ		2012.5-12	インターン	ヤギの疾病管理全般
Marie Megron	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2013.6-8	夏季実習生 (学部生)	屠体を利用した堆肥生産の大気中の温度と時間が堆肥内の赤外線温度に及ぼす影響
Eva Pacheco	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2013.6-8	夏季実習生 (学部生)	屠体を利用した堆肥生産中の赤外線温度計による温度計測の正確度
Alexandra Reyes	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2013.6-8	夏季実習生 (学部生)	ドラム缶による子ヤギ屠体堆肥生産と積み上げ式堆肥生産の比較検討
Marie-Eve Brassard	カナダ	ラバル大学 (ケベック)	2013. 7-11	博士課程 実習	放牧活動中のエネルギー費簡易測定法
Asrat Tera Dolebo	エチオピア	SARI エチオピア南部 農学研究所	2013.10-2014.2	サバティカル	肉用種ヤギにおける基礎飼料の品質と濃厚飼料給餌量が飼料摂取量と消化性に及ぼす負の影響
Alexander Kahi	ケニア	エガートン大学	2013.8 2014.9 2015.11	共同研究員	プロジェクトミーティング
Wilson Karimi	ケニア	エガートン大学	2013.8 2014.9 2015.11	共同研究員	プロジェクトミーティング
Youn-qing Guo	中国	中国科学院	2013.11-2014.11	客員研究員	飼料中の縮合型タンニンが寄生虫抗体に及ぼす影響
Ruth Mclat-Sonaco 他10名	フィリピン	フィリピン農業省	2013.11	研修	一般研修(1週間)
Canagsaby Devendra	マレーシア	コンサルタント	2013.6.15	表敬訪問	
Sophia Liu	中国		2014.7-2015.7	交換留学生	農学科動物科学コース
Lily Zheng	中国		2014.7-2015.7	交換留学生	農学科動物科学コース
Jackie Song	中国		2014.7-2015.7	交換留学生	農学科動物科学コース
Kevin Wang	中国		2014.7-2015.7	交換留学生	農学科動物科学コース

氏名(敬称略)	国籍	所属	期間	形態	研修内容/プロジェクト
Mengistu Urge	エチオピア	ハラマヤ大学	2014.3-2015.3	客員研究員	摂水量制限によるヤギおよびヒツジの耐性
Bridgit Muasa	ケニア	ケニア獣医省	2014.9-11	USDA Borlaug Fellow	ヤギにおける介助生殖技術の12週間研修
Chilukovian Wasike	ケニア	マセノ大学	2014.9-11	USDA Borlaug Fellow	乳用ヤギにおける余剰摂取量によるゲノム分析
Susan Waage	アメリカ	USDA	2014.1	プロジェクト 評価	プロジェクトミーティング
Jonathan Hamrell	アメリカ	USDA	2014.1	プロジェクト 評価	プロジェクトミーティング
Nhayandra Silva	ブラジル	サンパウロ大学	2014.7-2015.7	博士課程 インターン	泌乳ヤギにおける給餌時間制限の影響
谷口雅康	日本	山口大学 共同獣医学部	2015.3	視察訪問	ヤギの疾病全般
吉村文隆	日本	名古屋大学	2015.4.24-27	技術研修	一般飼養管理全般
Luana P.S. Ribeiro	ブラジル	バイーア連邦大学	2015.7-2016.7	博士課程 インターン	初期のBCSと飼料品質がヤギの泌乳量に及ぼす影響
Andrea Paola Rios Lugardo	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2015.7-8	夏季実習生 (学部生)	一般飼養管理
Nicole M. Irizarry Larriuz	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2015.7-8	夏季実習生 (学部生)	一般飼養管理
Mirene Rosas Feliciano	プエルトリコ	プエルトリコ大学 マヤゲス校	2015.7-8	夏季実習生 (学部生)	一般飼養管理
Virginia Venturina	フィリピン	セントラルルソン 州立大学	2015.8	技術研修	潜在性乳房炎の早期発見とその管理
Shirron LeShure	アメリカ	オハイオ州立大学	2015.7-2017.7	客員研究員	反芻家畜における地球温暖化ガス排出量の制御
Dereje Tadesse Gulich	エチオピア	ハラマヤ大学	2015.8-2017.8	客員研究員	環境変化に対する回復力のゲノム分析
Sebastian Paez Lama	アルゼンチン	アルゼンチン 乾燥地研究所	2015.9-12	博士課程 インターン	断続的なマメ科食物給与方法が肉用ヤギの成長に与える影響
Hhirut Yirga	エチオピア	ハラマヤ大学	2015.10-2016.2	博士課程 インターン	飲料水中の塩分含量が飼料摂取量、消化およびエネルギー利用効率に及ぼす影響
Emilio Cruz	フィリピン	セントラルルソン 州立大学	2015.10.27-29	視察訪問	一般飼養管理
Neal Rosario	フィリピン	セントラルルソン 州立大学	2015.10.27-29	視察訪問	一般飼養管理
Alvin Soriano	フィリピン	セントラルルソン 州立大学	2015.10.27-29	視察訪問	一般飼養管理

